

2025年のR&D新常識：エージェントAIによる自律型イノベーション

2025年、R&DにおけるAI活用は、指示待ちの「生成AI」から、自律的に仮説生成から実験までを完遂する「エージェントAI」へ移行しました。これにより、従来のコストセンターであったR&D部門は、自ら価値を生み出すイノベーションエンジンへと変貌を遂げています。



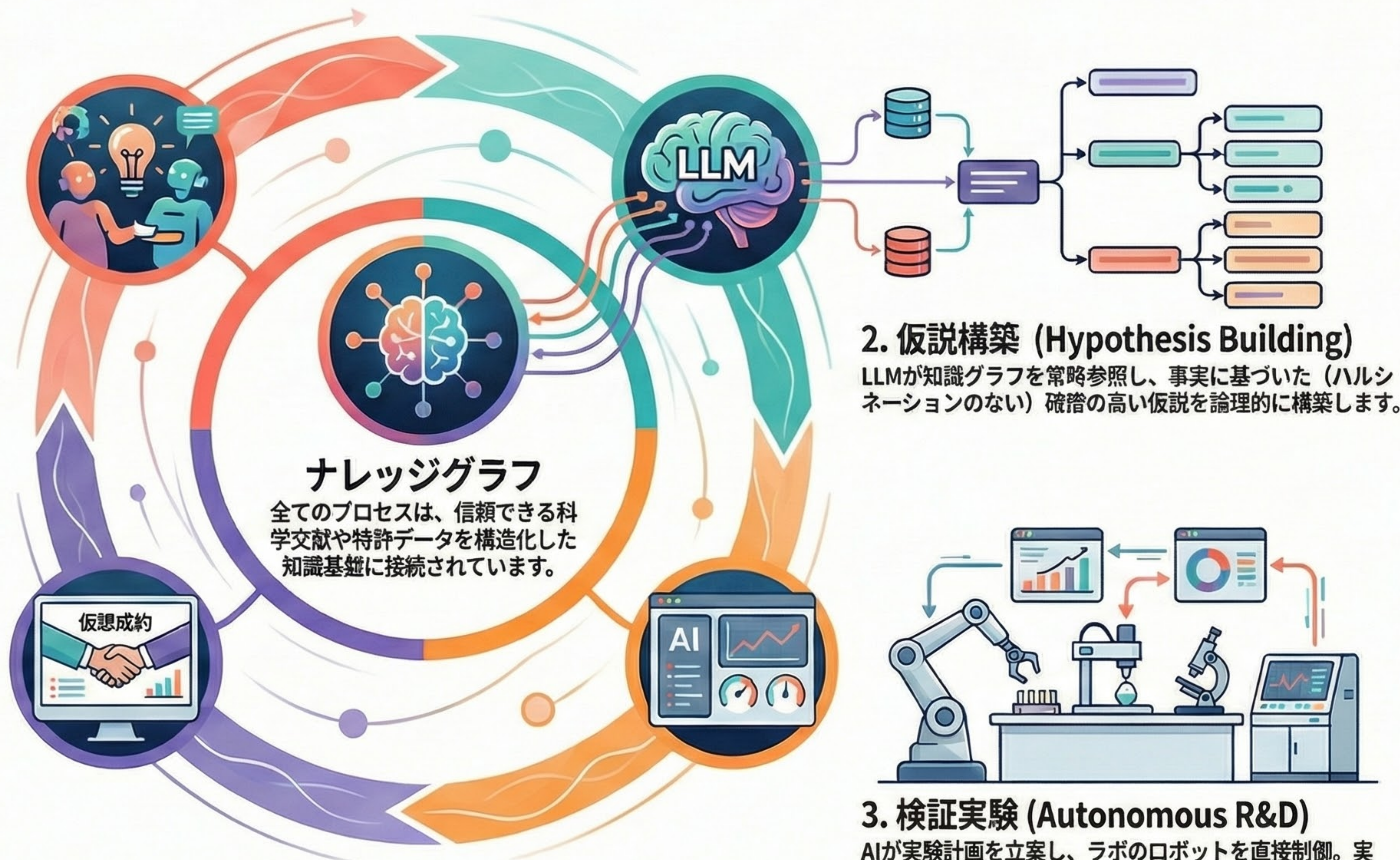
1. アイデア創出 (Agentic Ideation)

専門家役のAIエージェント群が自律的に施設し、発明原理 (TRIZ) を用いて革新的なアイデアを生み出します。



4. 市場適合 (Market Fit Simulation)

複讎なB2Bの購買担当者をAIペルソナで再現。実際の商談前に「仮想成約」のシミュレーションを行います。



2. 仮説構築 (Hypothesis Building)

LLMが知識グラフを常略参照し、事実に基づいた (ハルシネーションのない) 確信の高い仮説を論理的に構築します。



3. 検証実験 (Autonomous R&D)

AIが実験計画を立案し、ラボのロボットを直接制御。実験から解析、次の計画立案までを自動でループさせます。